

		4 月	5 月	6 月
収 入	近藤恵宣教師指定	151, 100	248, 284	208, 600
	前月繰越金	2, 400, 466	2, 534, 991	2, 460, 702
	合 計	2, 551, 566	2, 783, 275	2, 669, 302
支 出	近藤恵宣教師支援金	0	281, 200	0
	年金・支える会経費	1, 575	17, 373	830
	LMJ事務局費	15, 000	24, 000	20, 000
	次月繰越金	2, 534, 991	2, 460, 702	2, 648, 472
	合 計	2, 551, 566	2, 783, 275	2, 669, 302

※宣教師支援金は必要に応じて随時送金しています。

献金者お名前

(教会) 泉キリスト教会、岩井キリスト教会、川鶴チャペル、観音寺聖書教会、自治医大前キリスト教会、下館キリスト教会、湘南キリスト教会、湘南ライフタウンキリスト教会、菅生キリスト教会、橋本キリスト教会、蓮田キリスト教会、日立福音キリスト教会、本郷台キリスト教会、東村山キリスト教会、前橋キリスト教会、松山聖書教会、水戸下市キリスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、横浜永谷キリスト教会、横浜緑園キリスト教会

(個人) 池田百合子、大重和樹・香、岡本英次、御澤雅江、小池宏明、國井昭男、倉持芳、西條晴美、斉藤真木子、佐藤丈史、芝田寛二・正子、澁澤公行、添田毬子、染矢睦子、高橋洋子、武田香、立石哲・早苗、田中泉、田中美智子、鶴木悠紀子、豊田光子、中井靖子、西村久男、三浦健治、光畑京子、安田是和、湯澤邦夫、自治医大前キリスト教会個人、匿名(敬称略)

貴い献金をありがとうございました。

編集後記

近藤恵宣教師の1期目が間もなく終了します。10月には帰国する予定です。ここまで支えてくださった兄弟姉妹のみなさん、ありがとうございました。「あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してください。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです」(IIコリント1:11)。主は、3年前に示してくださった、このみことばのとおり私たちを導いてくださいました。(ひ)

連絡先: 〒329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1

近藤恵宣教師を支える会

(自治医大前キリスト教会内)

Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/meg/>

E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込

口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会



わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のようなものです。神が考え、神が書くのです。鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだけです。(マザー・テレサ)



陶器師は、粘土で制作中の器を自分の手でこわし、再びそれを陶器師自身の気に入ったほかの器に作り替えた。

(エレミア書18:4)

愛する兄弟姉妹のみなさま、お元気でお過ごしですか？日本は今とても暑いと聞いています。こちらは雨が毎日のように降るので、暑さが幾分やわらいでいますが、それでも夜暑くて眠れなかったという声をよく聞きます。私は大丈夫、ちゃんと眠れます。

今働いているJoyramkura Christian Hospital^{ジョイラムクラクリスチャンホスピタル}は、長い間多くの方の祈りに支えられてきた、愛に包まれた所だと思っています。それでも戦いはあります。その中で主によって作り替えられる痛みと愛を感じつつ、過ごしているのが今日この頃の私です。10月中旬で第1期が終了します。ここまでの道のりを、祈りと貴いささげもので支えてくださったみなさまに、心より感謝いたします。

この病気は、死で終わるだけのものではなく

5月下旬に、そけい部に小腸が脱出して戻らなくなった、かんとんヘルニアの若い男性の手術をしました。小さな二人の女の子のお父さんで、リキシャを運転しています。小腸の一部が壊死になって弱くなったところに穴があき、それを修復しました。一時良くなっていたのですが、1週間後お腹が張り、痛みも強く、腹膜炎の診断で再び開腹しました。見ると、前回の手術とは全く別のところに、小さな穿孔がありました。腸チフスカ寄生虫によるものだと思います。これを修復して、手術を終わりました。この術後数日してお腹に入れた管から大量の腸液が出るようになりました。また別の穿孔と考えました。手術をしたいのですが、全身状態が悪く、全身麻酔をかけることができません。高カロリー輸液もなく、血中の電解質を補正するための注射液もなかなか使えないところで、食事がとれないこういった患者さんの状態を保つのは、日本で診療していた頃に比べ、はるかに難しいということを痛感しました。



▲ジョイラムクラ・クリスチャン病院の病室の様子。患者には、家族が必ず付き添う

こんな時にこのみことばに出くわしました。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです」（ヨハネ11:4）。この患者さんのためのみことばだと思いました。翌日、病院の牧師さんに彼と一緒に祈ってもらうようお願いしました。牧師さんは、何回も彼を訪ねて来てくれました。残念ながら、この患者さんは亡くなりました。でも、こう言っていたそうです。「良くなったら、また訪ねてくるよ」。バングラデシュの病院では、患者さんに対して看護師さんもお医者さんも優しくしません。私から見ると、ふんぞり返った態度です。それでも、みんなが一所懸命やってくれているのを、彼は感じる事ができたのだと思います。一人の看護師さんが彼の死後、言いました。「とっても悲しい」。普通、患者さんが亡くなっても、看護師さんはっけんどんで

す。家族の悲しみを共有している感じはしません。なので、こう言ってくれたのを、私はうれしく思いました。

患者さんがみんなラザロのようによみがえるわけではないでしょう。でも、ひとりひとりの患者さんに仕えることは、主の栄光のためなのだというのを、いつも心したいと思ったのでした。

水道管が凍ると

7月にバングラデシュ国外で2週間の休暇をいただきました。宣教師のためのゲストハウスで過ごしたのですが、ここに小さな図書室がありました。そこで見つけたのが、ビリー・グラハムの書いた‘The Holy Spirit’という本。それは、30年も前に出版された、もう日に焼けた小さな本でした。この本から私はたくさんを学びました。その中に、水道管に凍った所があると、水が流れてこないように、自分の中に罪があっては、聖霊が力を注ぐことができない、というのがありました。そして「誰かを赦していなかったりするのなら、次のページに進む前に、神の前にひざまづいて祈りなさい」とありました。私の中には、苦い思いがありました。何度も祈ってきたものの、まだ確に残っていました。なので、ためしに（！）ひざまづいて祈ってみました。「神様、私は彼のことを赦しきれていません。でも、彼の言ったことはあまりにひどいんじゃないですか？」とても心から悔い改めているという祈りではありませんが、とにかく祈りました。

それから1週間、毎日主は、私に語りかけてくださいました。そして、私がどう判断するかは問題ではない、主の目にかなうかどうかなのだということ、主の目からすれば、彼を赦していない私が、大きな罪人なのだという事に気付いたのでした。聖霊は再び、私に力を与えてくださっています。

Prayer request

1. 病院で必要な働きができるように。手術をすること以外に病院の感染や安全面の対策、急変時の対応の教育などをする必要があると思っています。
2. ベンガル語でのコミュニケーションのために。
3. 2期目に向けての主のみこころを知ることができるように。
4. 母と姉の救いのために。
5. 派遣教会の自治医大前キリスト教会のために。